

池の周りのクモ

小田の池の周囲には、湿原植物がよく茂っていて、この中で生活する小さな昆虫類がとてまたくさんいます。

このため、これらの小昆虫を餌とする小型のクモ類が草地に小さな網をつくって生活していますし、網を作らないで、歩きまわって虫を捕らえるクモ類もたくさんいるのです。

小田の池周辺に特に多い網



ドーム網

皿網



ギンナガゴミグモ



ワカバグモの若いオス



キララアシナグモ
(別名クモの宝石)



ヌサオニグモ



ユノハマサラグモ

小田の池では、くじゅう山群や由布・鶴見山系、万年・切株山群などに見られるクモ類がうまく混じりあっている場所として、大分県下の内陸部を代表するクモの生息地です。

水の中で生活するミズグモや遠く北海道から風に乗って飛んできたアカオニグモなどのクモも生息することが確認されています。

また、最も原始的な体形や生活ぶりを頑固に守り続けているクモで、大分県下のクモを代表するキムラグモという土の中で暮らすクモも池の周りの崖地で生活しています。

動物の世界では、同じ場所で混じりあって暮らす動物の種類が多ければ多いほど、その場所が生きものの生活環境として優れていることがわかっています。



コガタコガネグモ

こんな考え方で小田の池とその周りに多くのクモ類が生息することを考えてみると、この場所が動物たちにとって、どれほど優れた自然かということを理解することができます。

小田の池とその周りの景色は、美しく、心がなごむやさしげな眺めです。

しかし、そこでは、多くの動物たちが交流し、せめぎあい、命をかけて毎日を過ごしていることにも、ぜひ気づいてほしいと思います。

小田の池の周辺は、多くの動物たちが混じり合い、関わりあいを持ちながら生活することができる場所であり、県内でも数少ない優れた自然環境が残された地域であると言えます。

これまでは、人は多くの土地を利用して、生活を豊かに、便利にしてきました。しかし一方では、人が手を加えたために自然環境が大きく変わり、その結果たくさんの動物たちの生活する場所を奪ってしまうことになりました。

小田の池とその周りは、動物たちの生活する場所として、現在の自然環境を守り、大切にしていかなければならないのです。



緑の葉にひそむ緑青色のアオオニグモ



シロスケショウジョウグモ



ムツホシオニグモ

